

何が選言説を走らせるのか？
— 知覚の志向説と選言説における内容の個別性について —

富田 雄揮 (TOMITA Yuuki)
日本大学大学院文学研究科

本発表の目的は、知覚の現象的性格における個別性に関する問題を手掛かりにして、知覚の哲学における「志向説 intentionalism」と「選言説 disjunctivism」の関係を検討することにある。ここ 30 年ほどの間に、「知覚の哲学」は心の哲学や認識論の一見出しにとどまらないものとなってきた。この状況のなかでも、中心的な対立構図を呈してきたのは志向説と選言説との関係であろう。本発表は、この対立構図を問い合わせし、志向説の内部に選言説を動機づけるものが見出せるという考え方を検討するものである。

たとえば、目の前の机の上に置かれた赤いリンゴが見えるとしよう。そのとき見えるのは、どれでもよい任意のリンゴではなく、このリンゴである。それでは、知覚経験の内容に、こうした個別的なものはどのように取り込まれると考えられるだろうか。

一般に、志向説によれば、知覚とは〈世界はしかじかのあり方をしている〉という表象内容を伴う経験である。思考や信念とのアナロジーから、知覚経験の内容は、実際に世界が異なるあり方をしていたとしても同じでありうると考えられる。

他方で、素朴実在論によれば、真正な知覚は、環境内の個別的な事物と主体との関係によって構成される経験である。そして、もし知覚が関係的であるなら、対象が存在しない場合（幻覚など）には知覚は成立しないように思われる。こうしたやり方で、素朴実在論は〈幻覚と真正な知覚とは共通の基礎的な心的要素から成るのだ〉という前提を含む幻覚論法を批判することになる。すなわち知覚経験は、真正な知覚であるかまたはそうでない経験であるかのいずれかである（それゆえ、知覚経験をこのように非対称的なものとして特徴づけるやり方は「選言説」と呼ばれる）。

志向説の内外からの批判で重要なのは、知覚内容の「個別性」に関するものである。志向説は内容の一般的な性格に重点を置くから、それによって知覚に固有の個別的・関係的な性格を軽視してしまう、と言われることがある（たとえば McDowell 1986; Burge 1991; Soteriou 2000; 小草 2009）。マーティン（Martin 2004）によれば、ここで志向説はディレンマに突き当たる。すなわち、知覚経験の現象的性格を志向的内容によって説明するという方針を棄てるか、または、内容の個別性を重視して、真正な知覚と幻覚とに共通の心的状態を帰するという説明を諦めるか。マーティンは後者の選択を採り、知覚の現象的性格の有する個別性を、直示的な要素によって特徴づけ、それが結局は共通要素原理を排除する考え方と親和的になる、といったことを試みているように思われる。

そこで、こうした論点を考察するために、志向説と選言説のそれぞれにとって、知覚経験の内容に個別性がどのようなものとして理解されるのか、という点を検討する必要がある。筆者は、その結果、志向説が選言説の動機づけを回収するというより、むしろ志向説の側にも選言説を動機づける要素が見つかるのではないか、という予想をもつ。

主な文献

- Burge, Tyler. (1991), “Vision and Intentional Content”, in Ernest LePore and Robert Van Gulick (eds.), *John Searle and his Critics*, Oxford: Blackwell: 195–213.
- Martin, Michael G. F. (2002), “Particular Thoughts and Singular Thought”, in A. O’Hear (ed.), *Logic, Thought, and Language*, Cambridge: Cambridge University Press: 173-214.
- McDowell, John. (1986), “Singular Thought and the Extent of Inner Space”, in Philip Pettit and John McDowell (eds.), *Subject, Thought, and Context*, Clarendon Press: 137–68. [Reprinted in John McDowell (1998), *Meaning, Knowledge, and Reality*, Harvard University Press: 227–259.]
- 小草 泰. (2009), 「知覚の志向説と選言説」, 『科学哲学』(42-1): 29-49.
- Soteriou, Matthew. (2000), “The Particularity of Visual Perception”, *European Journal of Philosophy*, 8: 173-189.